

2025 年度 日本泌尿器科学会 (JUA)/米国泌尿器科学会 (AUA) 交流プログラム

2025 JUA/AUA Academic Exchange Program

秦 淳 也 (福島県立医大)

2025 年 4 月 26 日から 5 月 16 日まで、私は AUA-JUA Exchange Program の一環として、AUA 2025 への参加ならびにピッツバーグ大学での約 3 週間の研修に参加いたしました。

AUA 2025 はラスベガスで開催されました。私は今回で 4 回目の AUA 参加となりましたが、毎回最新の知見を学ぶことができる貴重な学会であると改めて感じました。多くの演題の中でも、前立腺肥大症や尿路結石症に関する機器開発の進歩、さらに泌尿器癌に対する新規薬物療法に関する発表が特に印象に残りました。夜にはアジア各国の先生方と交流する機会もあり、各国の手術事情について意見交換ができたことは非常に有意義でした。

AUA 終了後はピッツバーグに移動し、大学病院での研修に臨みました。Program Moderator の Quin 教授は、私の「さまざまな種類の手術を見学したい」という希望を反映し、3 週間で 3 つの病院を巡る研修計画を立てていただきました。

最初の研修先である Presbyterian Hospital では、尿路結石症や前立腺肥大症などの良性疾患に対する手術を中

心に見学しました。毎日午前 7 時から手術が始まり、1 日に 7~8 件もの症例が行われる非常に活発な現場でした。主にフェローの先生と行動を共にしていましたが、手術・病棟・カンファレンス準備と休む間もなく仕事をこなす姿に非常に感銘を受けました。また、泌尿器科手術が行われなかった日には、移植外科の Tever 教授が執刀する腎移植に参加する機会をいただきました。術中にコーディネーターから次々とドナー情報が入る状況は、日本との大きな違いを実感するものでした。

次の 1 週間は Mercy Hospital での研修でした。同院はロボット支援手術や尿道形成術を積極的に行っており、ロボット支援鼠径リンパ節郭清など興味深い手術を見学することができました。特に尿道形成を専門とする Rusilko 先生は非常に情熱的で、陰茎プロステシスや人工尿道括約筋にも積極的に取り組まれており、「前立腺全摘除術の合併症は治すことができる」という力強い言葉が強く印象に残りました (写真 1)。

最後の週は Shadyside Hospital での研修で、Oncology に特化した病院で進行癌に対する多数の手術を見学することができました。研修の最後にはピッツバーグ大学独自の Certificate を授与いただき、大変感激いたしました (写真 2)。

また研修期間中、当講座から研究留学している松岡先生とも再会し、博物館や野球観戦に連れて行っていただ



写真 1 Mercy Hospital で Lusilko 先生と (向かって左から筆者、Lusilko 先生)

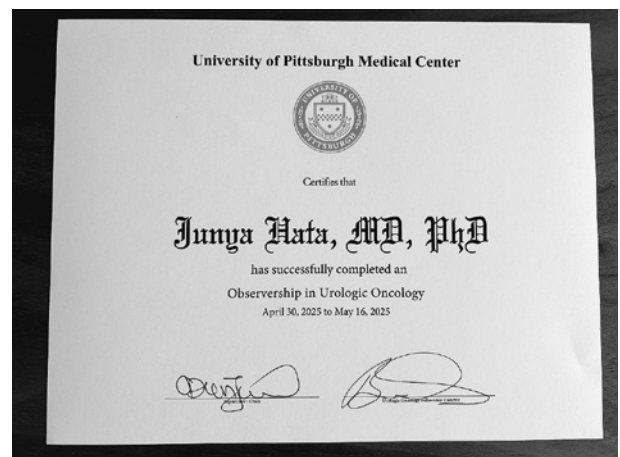


写真 2 ピッツバーグ大学からの Certificate



写真3 野球観戦に訪れた筆者

きました（写真3）。留学生活に関する体験や悩みについて語り合うこともでき、非常に有意義な時間となりました。

今回の研修を通じて得られた経験は、今後の臨床および研究活動において大きな糧となると思っています。このような貴重な機会を与えてくださったピッツバーグ大学の先生方やスタッフの皆様、ならびに温かくご支援くださった AUA および JUA 関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。